

令和6年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	やや多
水稲共通	ヒメトビウンカ	並	やや多
	縞葉枯病	並	並
	ツマグロヨコバイ	並	やや多
	セジロウンカ	並	やや多
	トビイロウンカ	並	やや多
	コブノメイガ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病	並	並
	ハダニ類	並	並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病（防除情報第6号）	やや多	多
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	少	少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
	アブラムシ類	少	少
びわ	がんしゅ病	少	やや少
	灰斑病（防除情報第7号）	やや多	多
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類（防除情報第8号）	やや多	やや多
茶	炭疽病（注意報第4号継続）	多	多
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	やや多	やや多
	カンザワハダニ	少	少
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	やや少
	クワシロカイガラムシ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（32筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.7%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（0.0%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる）。

好適条件等の詳細は病虫害防除所ホームページを参照。

月日	鰐浦	巖原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	西海	有川	長崎	島原	福江	口之津	脇岬
5/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5/28	-	-	-	-	4	-	-	4	-	-	-	-	-
5/29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5/30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5/31	-	-	-	-	-	4	1	-	●	-	4	●	-
6/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/7	-	-	-	-	1	-	4	●	-	4	●	-	-
6/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/9	-	-	-	-	●	-	●	-	4	●	-	●	-
6/10	-	-	-	-	●	-	●	-	●	●	-	●	●
6/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	? : 判定 不能	- : 好適 条件なし	1 : 準好 適条件1	2 : 準好 適条件2	3 : 準好 適条件3	4 : 準好 適条件4	● : 好適 条件
------	--------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	--------------

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（32筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発病株率0.3%）。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

本病は上位葉が発病すると収量低下などの被害が生じるので、特に生育が旺盛で過繁茂となっている圃場など上位葉への進展が懸念される圃場では薬剤散布を徹底する。薬剤散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

## 水稻共通

### 1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 ヒメトビウンカ やや多  
縞葉枯病 並

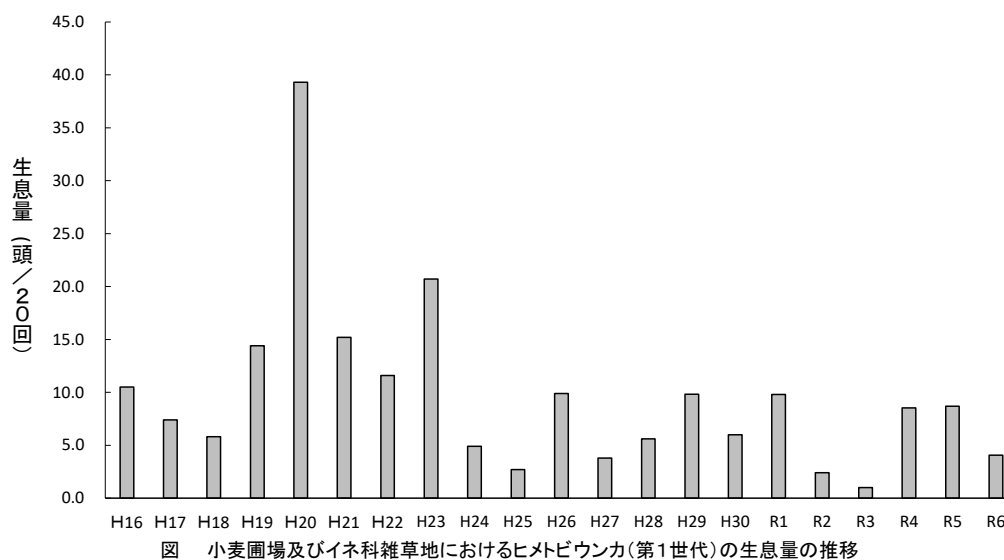
(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（32筆）の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は46.9%（47.7%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は2.7頭（0.4頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 本年5月の小麦圃場及びイネ科雑草地（14地点、1地点あたり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査を行った結果、捕虫網による20回すくいとり当たり頭数は4.1頭（平年 6.8頭）と平年並であり（図）、若・中齢幼虫主体であった。

- エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項  
今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。



## 2. ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 ツマグロヨコバイ やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 6月前期の巡回調査(32筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は34.4%(33.4%)であった。
- イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は22.7頭(1.9頭)であった。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項  
今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。

## 3. セジロウンカ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 5月2日にネットトラップ(諫早市)において初誘殺を確認した。
- イ 6月前期の巡回調査(32筆)の結果、株当たり虫数は0.3頭(0.1頭)、発生圃場率は37.5%(30.1%)であった。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数8.7頭(0.4頭)であった。
- エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項  
今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。

## 4. トビイロウンカ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 6月前期の巡回調査(32筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭、発生圃場率0.5%)。
- イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数0.2頭(過去10か年平均 0.0頭)であった。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月7日にフェロモントラップ(諫早市)において初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査(32筆)の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった(発生圃場率1.3%、食害株率0.0%)。10㎡当たり成虫数は発生を認めなかった(0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった(0.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

**いちご(育苗床)**

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は0.2%(0.6%)、発生圃場率は13.8%(4.8%)であった。

2. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 病虫害防除所への診断依頼では、5月30日に持ち込まれた子苗において発生を確認した。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床の除草を徹底するなど環境整備に努める。

イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床ではビニール展張を行う。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず、適切に処理する。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後や下葉除去など株に傷が生じるような作業後は重点的に薬剤散布を行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(29筆)の結果、寄生株率は7.1%(8.4%)、発生圃場率は34.5%(46.5%)であった。

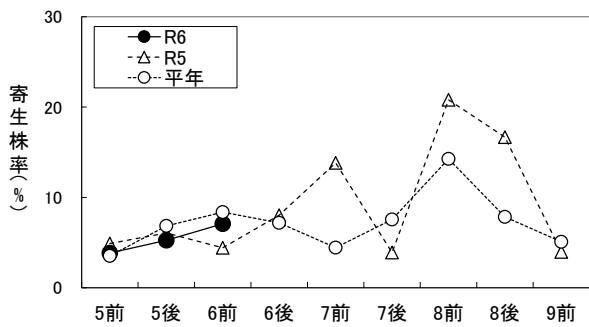


図 ハダニ類 寄生株率の推移(育苗圃)

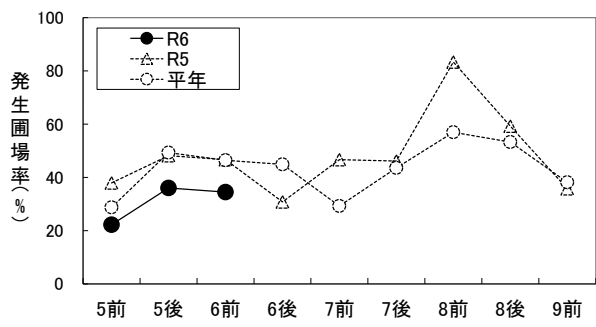


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(育苗圃)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 土着天敵の活動が活発になる時期であり、天敵への影響が大きい有機リン系・カーバメート系・合成ピレスロイド系薬剤の使用は避け、気門封鎖剤等の天敵に影響の少ない薬剤を積極的に使用する。なお、気門封鎖剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和6年長崎県病害虫防除基準 P 2 1 8～ 2 2 1の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ 親株切り離し後は、薬液がよく付着するよう子苗の間隔を十分に開ける。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（11筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は19.9頭（18.3頭）、発生圃場率は72.7%（66.4%）で、一部多発生圃場が見られた。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準 P 2 8 6～ 2 8 7の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

ウ 茎葉が繁茂すると内部まで薬液が届きにくくなるため、本虫の発生を確認した場合はできるだけ茎葉が展開・繁茂する前の早い段階で防除を徹底する。

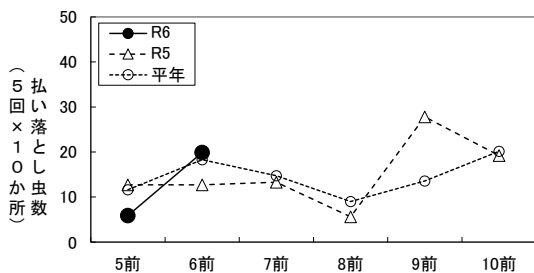


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移  
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

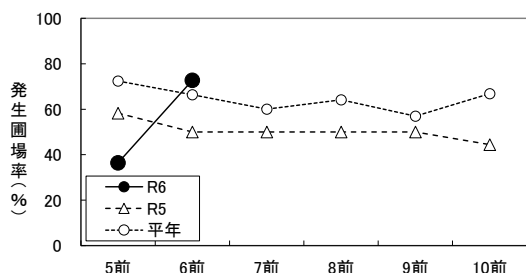


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

1. かいよう病

令和6年6月18日付け**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は0.5%（6.3%）、発生圃場率は19.4%（36.1%）であった。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（36筆）の結果、果頂部、果梗部ともに被害の発生を認めなかった（果梗部：被害果率0.0%、発生圃場率0.3%、果頂部：過去10か年平均 被害果率0.0%、発生圃場率0.3%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、6月1半旬以降少～平年並で推移している（図）。

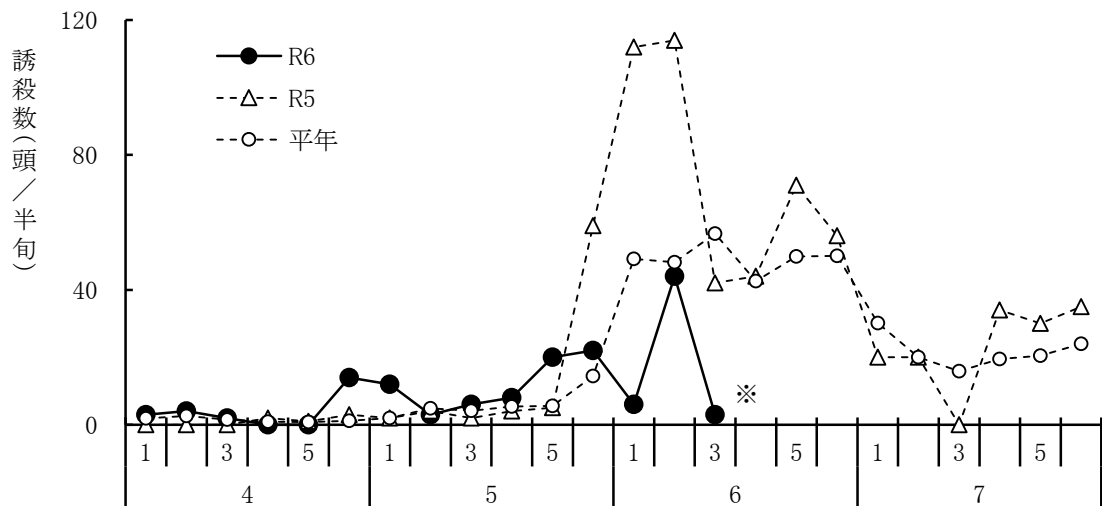


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況  
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(月・半旬)

※6月3半旬は一部欠測のため参考値

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年より8～11日程度早まる見込みである（表）。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日  
(令和6年6月17日時点)

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第3世代	<b>6/19</b>	<b>6/20</b>	<b>6/20</b>	<b>7/3</b>
〃 (平年)	6/30	7/1	7/1	7/12
〃 (前年)	6/20	6/21	6/23	7/2
第4世代	<b>7/9</b>	<b>7/10</b>	<b>7/10</b>	<b>7/23</b>
〃 (平年)	7/18	7/20	7/19	7/31
〃 (前年)	7/10	7/10	7/12	7/20
第5世代	<b>7/26</b>	<b>7/27</b>	<b>7/27</b>	<b>8/10</b>
〃 (平年)	8/3	8/5	8/5	8/18
〃 (前年)	7/26	7/26	7/29	8/6

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。  
なお、積算には2024年6月16日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。  
また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお、発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

## 5. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生新梢率は0.0%(0.4%)、発生圃場率は2.8%(8.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和6年長崎県病害虫防除基準P386~389(みかん)およびP396~397(かんきつ)の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

## びわ

### 1. がんしゅ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.2%、発生圃場率11.3%)。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は少ない見込みであり、本病の発生に好適である。

### 2. 灰斑病

令和6年6月18日付け**病害虫発生予察防除情報第7号**による。

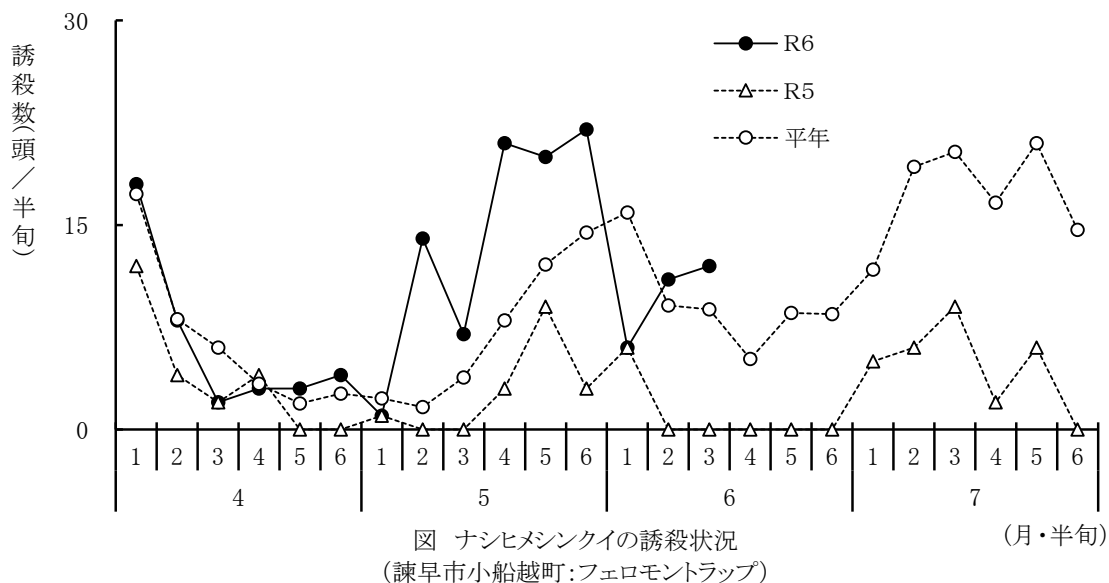
### 3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、6月1半旬以降やや少~平年並で推移している(図)。



## 果樹共通

### 1. カメムシ類

令和6年6月18日付け**病害虫発生予察防除情報第8号**による。

## 茶

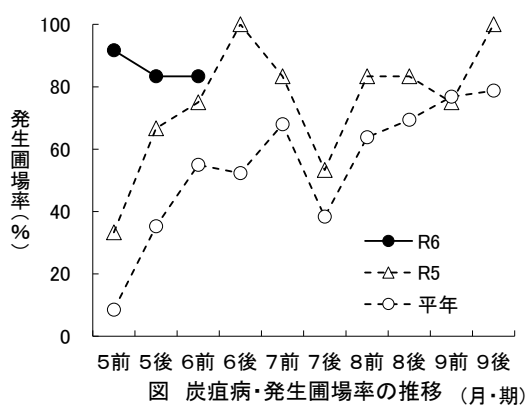
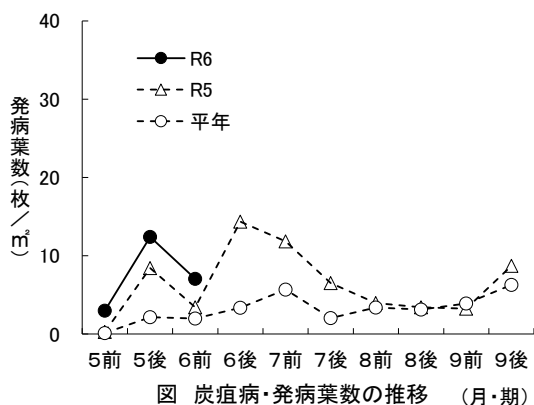
### 1. 炭疽病

令和6年5月16日付け**病害虫発生予察注意報第4号**を継続。

なお、その後の発生状況については、以下のとおりである。

#### (1) 発生状況等

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は7.0枚(2.0枚)、発生圃場率は83.3%(54.9%)であった(図)。



#### (2) 防除対策

- ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。
- イ 多発状態の続く園では、せん枝により伝染源を除去する。
- ウ 品種により本病への抵抗性に差があるため、「やぶきた」、「おくみどり」など本病に弱い品種は特に注意する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統(令和6年長崎県病害虫防除基準 P430～431の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。



## 2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 少  
(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は1.7頭（18.3頭）、発生圃場率は58.3%（91.0%）であった。

## 3. チャノココクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 並  
(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.1枚、発生圃場率8.3%）。

イ フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量は、6月1半旬以降増加している（図）。

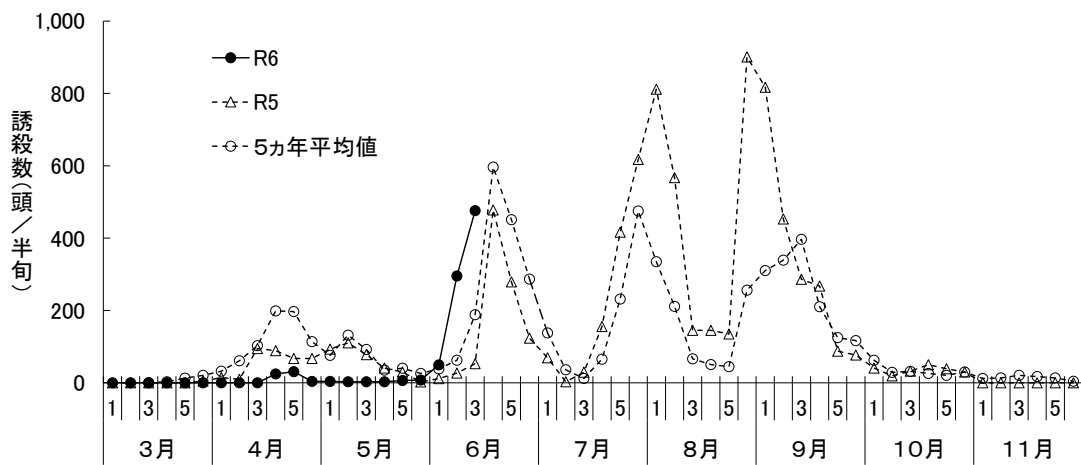


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵町:フェロモントラップ)  
※茶業研究室調べ

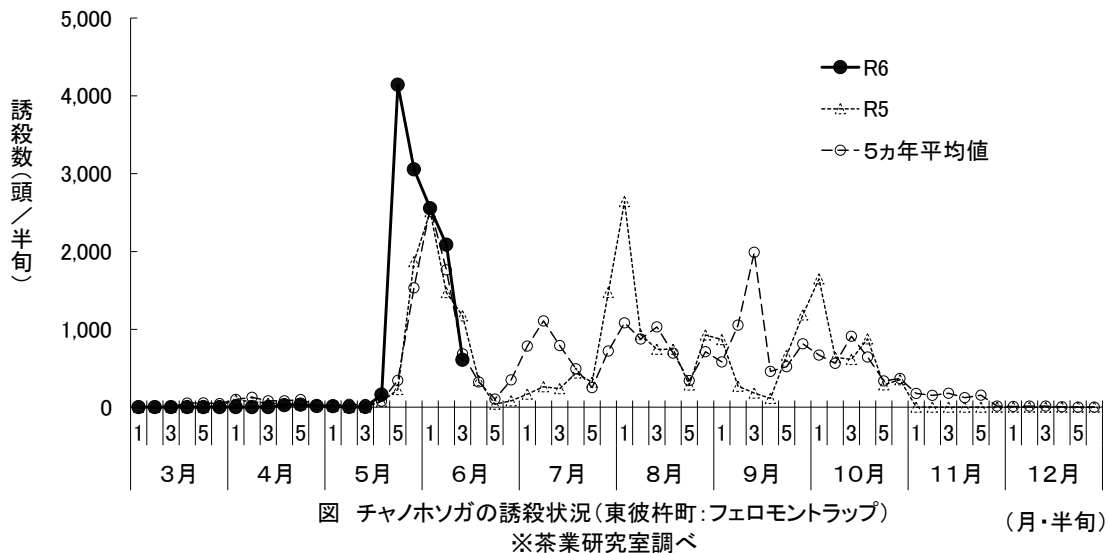
(月・半旬)

## 4. チャノホソガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多  
(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.4枚（0.2枚）、発生圃場率は33.3%（9.8%）であった。

イ フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量は5月5半旬に大幅に増加したものの、直近の6月3半旬では5か年平均値並となっている（図）。



### 5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 少  
 (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.3%（4.1%）、発生圃場率は16.7%（35.1%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。  
 イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P432～435の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少  
 (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は2.3頭（7.4頭）、発生圃場率は83.3%（74.3%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。  
 イ 中切り等の更新園、摘採中止園、幼木園などでは、茶芽生育期間が長いため被害が継続し、樹勢へ及ぼす影響が大きいことから、特に注意する。  
 ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P432～435の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

### 7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 少  
 (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は0.4%（6.2%）、発生圃場率は8.3%（43.5%）であった。

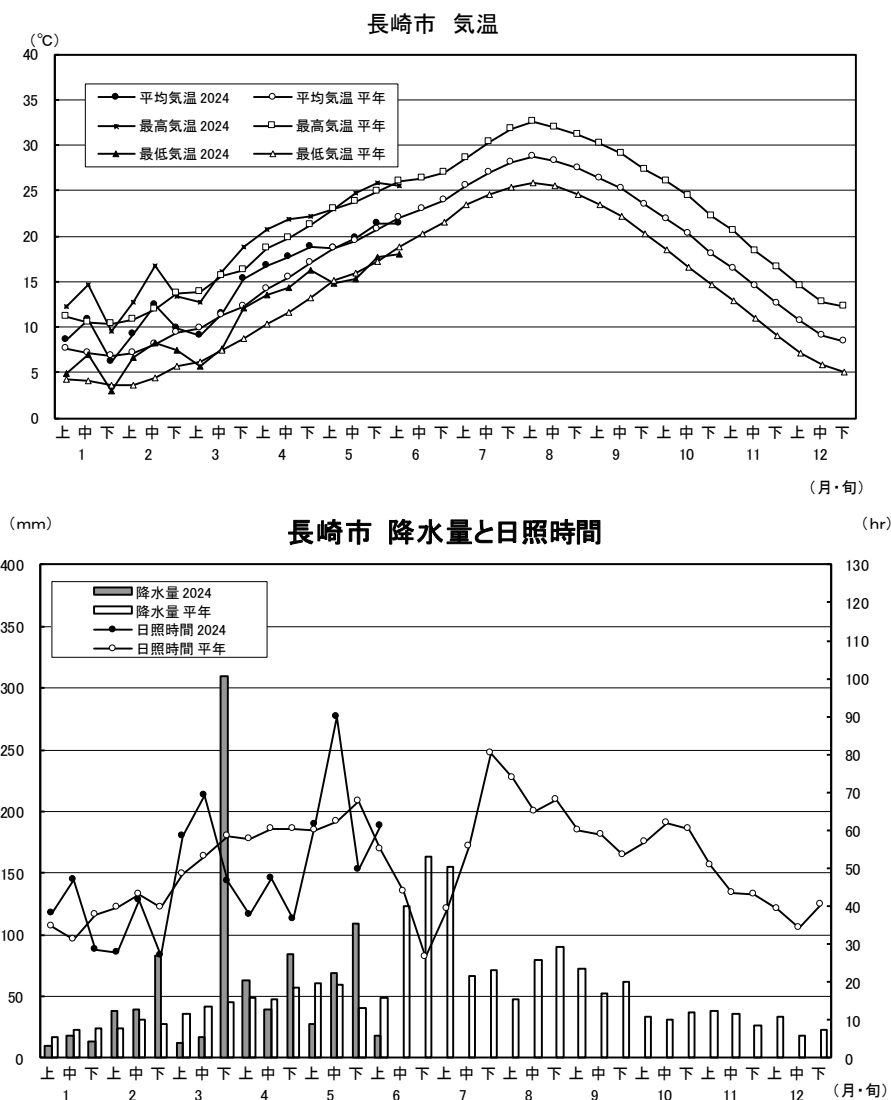
【参考】

(令和6年6月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和6年の気象経過(長崎地方気象台)



- 6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。
- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

- この情報に関するお問い合わせ  
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

